

シーニックバイウェイ北海道 函館・大沼・噴火湾ルート

函館・大沼・噴火湾ルートでは、旧南茅部町の著保内野遺跡や大船遺跡、森町の鷲ノ木遺跡に代表されるように、国道沿線には縄文遺跡群が散在しており、当代表者会議は沿線地域を「縄文ロマンエリア」として位置づけています。この著保内野遺跡で出土した北海道で唯一の国宝「中空土偶」は、10月1日にオープンした函館市縄文文化交流センターで常設展示されています。また、北東北に目を向けると、三内丸山遺跡や亀ヶ岡石器時代遺跡などの縄文遺跡が数多く存在します。

これらのことから、当代表者会議では、縄文をキーワードに、地域のその他観光資源や食・文化、地域との触れ合いを取り入れたモニターツアーを11月に予定しています。そのモニターツアー実施に当たり、9月24日から25日にかけて、青森市の三内丸山遺跡など現地視察に行ってきましたので、その報告を簡単にさせて頂きます。



まず初めに訪れたのは、三内丸山遺跡。 三内丸山応援隊の三浦事務局長さんに、 現在は約95名のボランティアガイドが登 録されており、入館者の約2、3割がこのボ ランティアガイドによる案内を受けてい るなど、参考になるお話しを1時間程度お 聞きしました。



その後、縄文時遊館の中にあるレストランで、生産量全国1位の青森県産長芋をたっぷり添えた「縄文美人蕎麦」と「縄文古代飯おにぎり」をおいしく頂きました



ご飯の後は、ボランティアガイドの方に 遺跡内を案内して頂きました。元々バス ガイドの方ではないかと思えるような言 葉遣いに、きっちり笑いも盛り込むなど 、巧みな話術にただ驚くばかりでした!



遺跡内に入るとまず目に付くのが、この「大型掘立柱建物」です。柱穴は、なんと直径約2メートル、深さ約2メートルにもなります。



次の日、まず訪れたのは、ねぶたの家「ワ・ラッセ」。大型ねぶたを中心に5台展示しているねぶたホールを始め、青森ねぶたの全てが分かる青森市文化観光交流施設です。



ねぶたの家「ワ・ラッセ」を見学した後 、駐車場まで歩いている際に撮影した「 青森ベイブリッジ」。



次に訪れたのは、青森県立美術館。ゴッホやルノワール、モネ、マネなどの印象 派展が行われていました。



美術館の後、遅い昼食を取るために訪れたのが、道の駅「ゆ~さ浅虫」。ここでは、B1グランプリで上位入賞した「青森県産八甲田牛バラ焼き定食」を頂きました。



最後に訪れたのは、青森県営浅虫水族館 。時間が無くて館内の見学はできず…。 残念。